



あしたのために

令和6年12月24日
東京都立立川学園校長
市川 裕二

実習を終えての課題

10月号と11月号で、聴覚障害教育部門高等部普通科2年生と専攻科1年生の職場実習を紹介しました。実習を終えて、生徒たちが感じた課題は以下になります。

- ・コミュニケーションでは、相手に言葉を伝える力や日本語の力が不足していることを実感したこと。
- ・話を聞いているとき、すぐメモをとれず、終わった後メモを書くと、内容を忘れてしまい、また聞くことが多かった。
- ・説明を受けているときに、もっとリアクションを大きくしたほうがよかった。挨拶やお辞儀を日常生活でできるようにすること。
- ・自分は、大きな声で挨拶をしているつもりだけど、周りからは足りないと思われているかもしれない。
- ・ビジネス文章を正しく作れるようにする。
- ・文を伝える力と文を読み取る力が必要なこと。
- ・たくさんある仕事を効率良く進める工夫をすること。

実習を体験し、コミュニケーション能力の大切さ、メモを取るタイミングの難しさなどを感じることができ、普通の学校生活では手話でのコミュニケーションが多いため、メモを取る習慣はなく実習だから気付くことができる部分かと思えます。

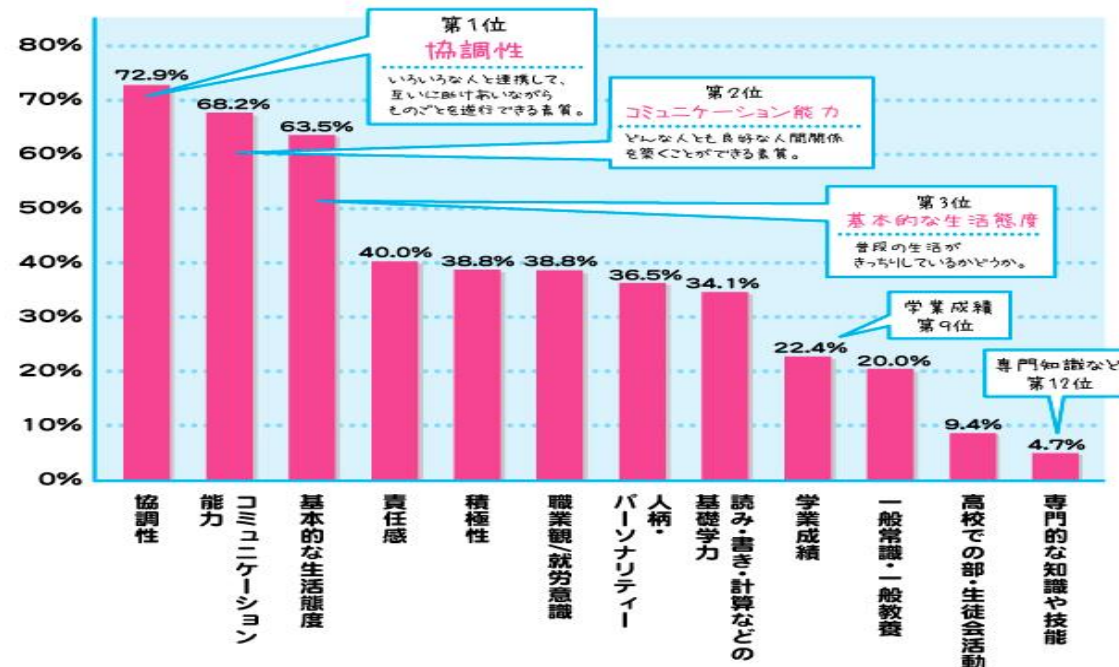
挨拶や基礎学力に関しても、通常の生活だけでは感じることはできないのではと思います。

企業が求める力は何か！

次に、企業が採用する際に、どんな力を重視しているかです。これは毎年2月に行っている職業講話での内容である「求職セミナー（東京しごとセンター）」からの引用になります。

- 1位 コミュニケーション能力
- 2位 協調性（チームワーク）
- 3位 積極性（チャレンジ精神）
- 4位 基本的な生活態度
- 5位 責任感
- 6位 職業観／勤労意欲
- 7位 一般常識・一般教養
- 8位 部活動・生徒会活動
- 9位 学業・成績

以下は少し古いですが、東京経営者協会の「平成21年度 新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」結果です。1位協調性、2位コミュニケーション能力です。時代が変わっても、企業の求める力に変化はないようです。



本校卒業生が働いている企業からの声は以下になります。

- ・挨拶をしっかりする生徒
- ・明るく、元気な生徒
- ・積極的に行動できる生徒
- ・漢字の読み書きができる生徒
- ・メモをしっかり取る生徒
- ・時間を守れる生徒
- ・パソコンのスキルはそこまで重視しない

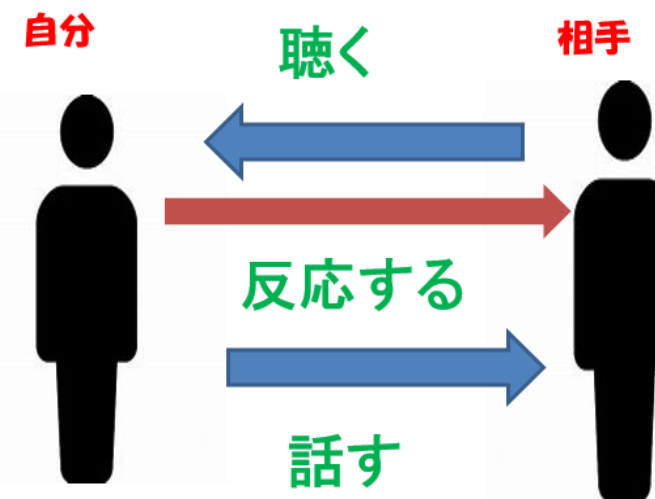
求める力第1位のコミュニケーション能力について簡単に触れます。「話す」「聴く」だけではコミュニケーションとは言えません。「反応する」があって、初めてコミュニケーションが成り立ちます。

教員の問いかけに対して、皆さんははっきり反応していますか。反応がなければ、分かったのか、分からないのか判断することもできません。反応することで、コミュニケーションを取ったと言えます。

実習でも反応をはっきりするようにと指摘を受けることがあります。

「おはようございます」「お先に失礼します」「わかりました」「もう一度お願いします」「ありがとうございます」「失礼しました」などは、指導者と円滑にコミュニケーションを取るためには必要だと生徒にも伝えていきます。

コミュニケーションの基本は挨拶だと考えています。自分から積極的に挨拶することは大切なことです。明るく、元気に挨拶できているかどうか、振り返ってみてください。



コミュニケーションは、キャッチボール